

2025年度秋学期 グローバル地域文化学部 グローバル地域文化学の実践2・4 募集要項

「グローバル地域文化学の実践」は、日本国内においてグローバル化する社会の様々な課題に向き合う経験を主体的に積む実践系の科目で、フィールドワークを行うクラスもあります。また、本科目を履修後に「グローバル地域文化学の発信」を履修することで、身近なグローバル・イシューについて英語で海外に発信できる力も身に着けることができます。

科目	単位数	学期	担当者	募集人数	費用
グローバル地域文化学の実践2 (奄美で考える多様性と持続可能性)	2単位	秋学期 (集中)	尹 慧瑛 hyoon@mail.doshisha.ac.jp	約2名	約10万円
グローバル地域文化学の実践4 (教育の多様性と文化的感受性)	2単位	秋学期	坂本 南美 nsakamot@mail.doshisha.ac.jp	約3名	約3万円

※費用は今後変更になる可能性があります。

- ★対象： グローバル地域文化学部生
- ★募集説明会： なし（質問は科目担当者に直接おこなうこと）
- ★募集期間： 2025年5月6日（火）～5月9日（金）
- ★選考： 2025年5月14日（水）～5月21日（水）
※詳細は科目担当者より連絡します。
- ★結果発表： 2025年5月29日（木）
- ★問合せ先： グローバル地域文化学部事務室（志高館1階）
TEL：075-251-2610
E-mail：ji-grjm@mail.doshisha.ac.jp

★科目の取扱い

対 象	グローバル地域文化学部生
単 位 数	2 単位
単 位 の 取 扱	本科目の修得単位は選択科目 A 群に算入します。 また、本科目を履修後に「グローバル地域文化学の発信」を履修することで選択必修科目 B 群（スタディー・アブロード科目群）の単位を修得することができます。
開 講 年 度 ・ 学 期	グローバル地域文化学の実践 2：2025 年度 秋学期（集中） グローバル地域文化学の実践 4：2025 年度 秋学期
登 録	大学にて一括登録を行います。（各自での登録手続は不要です）
注 意 事 項	クラス決定後のキャンセルは基本的に認められませんので、十分検討した上で出願してください。 履修中止も原則認めません。

★個別相談

各担当者にメールで連絡してください。

★出願受付

■受付期間

2025 年 5 月 6 日（火）～ 5 月 9 日（金）

【月～金 9：00～17：00（11：30～12：30は除く）】

提 出 書 類	所定の願書（両面印刷で提出して下さい）
願 書 提 出 先	グローバル地域文化学部事務室（志高館 1 階）
特 記 事 項	各クラス併願が可能です。

★選考試験

■選考試験（面接）

2025 年 5 月 14 日（水）～5 月 21 日（水）

※詳細は科目担当者より連絡します。

集 合 場 所	志高館
集 合 時 間	各担当者の指示に従ってください。
特 記 事 項	休学中や留学中の学生の面接について、オンラインで対応可能かどうかは担当教員へ確認してください。

★結果発表

■結果発表

2025年5月29日（木） 0時～

発表場所	DUETメッセージ
特記事項	出願者数の状況により第二希望のクラスに合格する場合があります。

★科目概要

科目名	グローバル地域文化学の実践2（奄美で考える多様性と持続可能性）
概要	鹿児島市から南に約400km、沖縄にほど近い奄美大島は、固有種や絶滅危惧種が生息する生物多様性の島であるとともに、島に流れ着くゴミやハブの駆逐など、人と自然環境をめぐる諸課題を浮き彫りにする島でもある。また、琉球王国／鹿児島県／沖縄／アメリカによる支配と統治の歴史とともに、独特の言語や信仰を残しながら都会から遠く離れた日常を送る人びとがいる。こうした「グローバル」かつ「多文化」な 이슈が交錯する奄美への訪問を通して、「日本」のなかの多様性と出会い、持続可能な生き方を考える。
スケジュール	集中講義形式で実施する。ただし、秋学期金曜2講時に事前授業・事後授業を8回程度予定している。11月下旬にフィールドワーク（3泊4日）を行う予定である。

科目名	グローバル地域文化学の実践4（教育の多様性と文化的感受性）
概要	世界的に急速なグローバル化が進む中、本授業では教育の視座から地域・文化に着目する。受講者は、グローバルな視点から移民の子どもたちへの教育、地域性の違いを超えた教育実践、文化的背景の異なる児童生徒のクラスコミュニティづくりに関する現状を学ぶ。それらを踏まえて実践的アプローチへの理解を深め、文化的コンピテンスを取り入れた教育活動をデザインし、日本の学校との交流を通して活動を実践する。これらの体験を通して、教育分野における多様性への理解を深め、それをどのように実践モデルに取り入れるかという実践的知見を育む。また、海外の研究者との交流や日本の教育現場での児童・教師との交流を通して、「Leave No One Behind」（UN）に向けたグローバルな教育的視点を養う。
スケジュール	秋学期火曜2講時。11月下旬に日本の小学校での交流授業実践を行う予定である。